

EurekaXIV

六年制通信 No.21 令和8年10月9日(金)号

星新一ふたたび

今年はひょっとしてショート・ショートの神様の没後 30 周年なのかな、未収録のエッセイ 91 篇と未収録のショート・ショート 3 篇から成る『きまぐれカプセル』(新潮文庫)が 9 月に発売されました。星さんの人気未だ衰えず、といったところでしょうか。

私の高校時代にも同級生に星さんのファンはたくさんいました。あの短い話は自分でも書けそうな気がするらしく、トライする人もいましたが、書こうとするたびに挫折し星さんの偉大さを身に染みて知ることになって、ますますファンになっていくのでした。星さんの作品は小松左京や筒井康隆よりも上品ですよ。

何と言っても 1000 以上のショート・ショートを残された方ですから、君たちもいくつか読んでいてのではないかな。人それぞれ好きな作品は違うでしょうが、世間的に有名なのは「ボッコちゃん」かなあ。「おーいでてこーい」は環境問題を皮肉った傑作で、私は時々読み返しています。好きな作品を挙げていけばきりがなくなってしまうのですが、これいいな、本当にこんな日が来るのではないか、来たら面白いだろうと思った作品があります。皆さん知っていますかね、「味ラジオ」。新潮文庫の『妄想銀行』に収録されています。少し紹介すると、一本の歯の内部に小さな受信機を取りつけ、放送局から送られる「味」を受信するだけ。ただの水を飲んでも、爽やかな果汁やコーヒーの味になるわけ。栄養バランスの取れた無味無臭のパンをかじると様々な果物の味がする。なぜなら、ちょうど果物アワーだから、というわけ。味の無いガムを噛みながら世界中の味を楽しむ生活を送ってる。味の心理学者が放送局の番組作りに参加して、極端な味や同じ味が続いたりするのを防いでいるとのこと。もちろんレストランもあって、そこに入ると電波は遮断され、今の私たちのように食事を楽しむこともできるのですが、「味ラジオ」に慣れた人々は本物を食べるとおなかを壊すらしい。

面白いでしょ。これだとアレルギーの人も何でも味わえるし、肥満にもなりませんよね。虫歯にもならないかも。こんなのができたら楽しいだろうな。何千という番組が可能でしょうしね。テレビのチャンネルのように好きな味を予約もできるでしょうし。反対に嫌いな味を遮断するくらい簡単にできそうだし。

星さんは「味ラジオ」の後半で、ラジオ局の不具合で急に電波が届かなくなった人々のパニックを描いてこの物語を終えています。便利に思われる装置のマイナス面もちゃんと描くのが星さんの真骨頂でしょうね。

私はこの物語を読むたびに、星さんの「味ラジオ」を思いついた天才と、文明のもろさをも書かれていることに感動を覚えます。文明を支えている非常に大きなファクタ

一は電気です。電気がなければ「味ラジオ」の放送もできません。個人の生活としても、今もし電気が失われたら、もちろん地震や豪雨の被災地の人たちは経験されているわけですが、暑さ寒さを凌ぐことすらままなくなります。社会的にも、例えば信号機が作動しなくなるだけで大混乱でしょうし、市役所や病院その他の福祉機関も何もできなくなるでしょう。私は今の文明がよって立つところのもろさを星さんは書いているようにも思うのです。皆さんも読んでみて下さい。

今週のおすすめ

・夏川草介 『本を守ろうとする猫の話』 (小学館文庫)

『神様のカルテ』と一緒にこの本も購入してしまして、夏川さんが続きますがいいお話なので紹介します。これはメルヘンですね。猫が話しますから。夏川さんの本好きは『神様のカルテ』を読んだ時から十分に理解できましたし、ペンネームの夏川草介の「夏」は夏目漱石から、「川」はあのノーベル文学賞の作家から、「介」は漱石の弟子から、というのは容易に推測できました。ただ「草」だけわからなかったのですが、『神様のカルテ』の主人公が学生時代に漱石の『草枕』を肌身離さず持っていたという記述から、おそらく『草枕』からではないかと思います。今回のお話の主人公も夏木林太郎、これは明らかに夏目漱石と森鷗外（森林太郎）ですよね。

本作は本を「閉じ込める者」、「切りきざむ者」、「売りさばく者」たちと対決していく夏木と猫の物語で、実は読んでいて最初の方はあまり面白くなかったのですが、最終章で夏川さんの問題意識がはっきりとわかり、この物語で何が言いたかったもよく理解できました。そして、私がこの作家に魅力を感じ共感を覚える理由もよくわかりました。今度は『始まりの木』を読んでみようと思います。

前回の「コロンボ」の問題と解答

・コインの問題：ここに金貨の入った袋が数個ある。袋の数はいくら多くてもよい。それぞれの袋に複数の金貨が入っている。この金貨の数もいくつでもいい。しかし、一つだけ重さの違う偽の金貨が入った袋がある。例えば普通 100 g の金貨が入っているのに、一つの袋だけ 110 g の金貨が入っている。どのような重さでも正確に測れる秤を一回だけ使用して、どの袋に偽の金貨が入っているかを特定せよ。

・共通点のない単語の問題：借用、外泊、敗北、欠勤。「敗北」以外は頭に「無断」をつけると「無断借用」「無断外泊」「無断欠勤」となり、意味が通じる。「無断敗北」とは言いません。

・原文における問題：leave (別れ), uncle (叔父), delight (喜び), asphalt (アスファルト)。答えは asphalt です。他の三語は French-leave (無断退出)、Dutch-uncle (ずけずけと説教する人)、Turkish-delight (ゼラチンの砂糖菓子) のように、前にフランス、オランダ、トルコと国名をつけると特別な意味を持ちます。

・コインの問題の答え：袋に 1,2,3…とナンバーをつけ、1 番の袋から金貨を 1 個、2 番の袋から金貨を 2 個、3 番の袋から金貨を 3 個、というふうに順に金貨を取り出し、全部まとめて秤に乗せます。例えば袋が 3 個だとした場合、1 番の袋に偽物が入っていれば秤は 610 g、2 番の袋に偽物が入っていれば 620 g、3 番の袋なら 630 g となるはず。このようにして偽の袋が特定できます。袋のナンバリングがミソですね。

BGM は YUI の *I REMEMBER YOU* でした…。